

# 連合会長が

## 暮らしの底上げ

連合会長 神津 里季生

番外編



### 野党は大丈夫か!

相撲やボクシング……などと言ってしまうと、それこそ国会審議は格闘技か? バトルか? ということになっってしまうが、しかし、国会議事堂が後樂園ホール顔負けの大格闘技場と化してしまつた場面を私たちは何度か見てきている。昨年の安保法制の採決に至る過程などはその極みだ。

新五五年体制なども揶揄される激烈な左右対立だが、普通の国民はこんなことは望んでいないと思う。こんなことになつてしまふのだったら、まだ五五年体制のほうがマシだったのでないか? 五五年体制は、表では激しく対立していたが裏では手を握っていた。

今では周知のことだ。しかし、昨今のような本当の意味での出口が見えない状況、合意形成を軽んじる国会風土では、結果として国民は不幸極まりない。

このような状況にしてしまったことには与党にも野党にも重たい責任があると思う。そしてこの三年半のあいだに四回もの国政選挙が繰り返されてきたことがこの事態に輪をかけた。しかし普通の常識ではしばらく解散がないとすれば、この当面の二年くらいのゾーンで、まともな、合意形成を重んじる政治を取り戻してもらいたいし、新五五年体制などと言われない新しい姿に向かつてほしい。

民進党は三人の候補の連日の論戦を経て蓮舫さんが新代表として選出された。民進党に対する国民の目線はまだまだきつい。かつてのバラバラ劇への強い抵抗感から、未だに關心と期待

の対象とはなり得ていない。目立っているのは良くも悪しくも安倍一強だ。総理のパフォーマンスは新聞・テレビも積極的に取り上げるし、「働き方改革」などもともと民進党(旧民主党)が昔から主張してきたような内容もパクられている。連合は、鄧小平さんではないが、ネズミを取る猫は別に白くても黒くても構わない。しかし民進党が埋没しかねないような流れは正直気が気でない。

蓮舫さんは民進党のなかでは目立つ人だから発信力は期待大だが、それだけにいろいろと逆風も強まっていくだろう。危機管理は重要だ。しかしジタバタせず、代表選で掲げたことを整齊と、拳党一致で実行してもらいたい。おっしゃっていたことからすれば、国民本位の理念のもとにきちっと対案を提示して、より良い結論を見いだす政治を期

待する。もちろん与党も呼応してもらいたい。そしてメディアもそういった点をしっかりと報道していつてもらいたい。実際にはこれまでも、なんでも反対の野党ではなく民進党は是々非々で対応してきたのであるが(第百九十通常国会での政府提出の法案への賛成率八十六%、共産党は四十二%)、けんかネタが大好きな人々たちへの受け狙いで、そのへんの地道な自身の報道は遠ざけられている。こういう傾向のなかでジミな努力を重ねることは政治家も正直しんどいだろう。選挙に勝つためには目立たなきゃいけないと、つい対立的パフォーマンスに向かつてしまふ。

しかしそんなことこの繰り返しではもうこの国はもたない。取っ組み合いではない実りのある闘いを心から望む。日はまた昇ることを信じて。

# 蓮舫民進党新代表に直言!

## 安倍自民一強に埋没せず、国民本位の対案を出せ

民進党新代表に蓮舫氏(48)が選出された。無条件に民進党を支持しているわけではなく、考え方が近いから応援しているにすぎないという連合会長の神津里季生氏が、蓮舫新代表に、国民の信頼を取り戻すための提言をする。

選挙になると連合傘下の多くの労働組合では、推薦する議員の当選に向けて職場の役員が中心となつてさまざまな活動をする。炎天下のなかでのポスター貼りだとか、気難しい相手もいっぱいいる電話でのお願いだとか、心身共に結構しんどい取り組みの数々である。仲間同士の励ましや目的意識がなければとても務まらない。そういう苦勞をしていくだけに、第一線の連合組合員からすると、昨今の政治状況にはいらだつことがまことに多い。

ちよつと勘違いされている向きもあるが、私たち連合は、はなから無条件で民進党を応援しているわけではない。あくまでも自分たちの持っている政策が民進党の考え方と最も近いから

応援しているにすぎない。そもそも六八六万人の連合組合員は基本的に普通の国民・市民の感覚の人たちであり、特定のイデオロギーや宗教を背景とした組織のような、強固なしほりを持つ姿とは全く異なる。組合員や役員も入れ替わるから、その都度、更地のところから政治に向き合う意識を醸成しないと運動にならない。そんななかで、普段そんなことは全く考えていない組合員に推薦候補者についての説明をしなければならぬ職場の役員の苦勞は並大抵ではない。

「ちよつと勘違いされている向き」と先ほど述べたが、その勘違いは、基本的にはメディアのステレオタイプ的な報道によりつくられてきたものだが、どうかする

と推薦される側、すなわち候補者本人が、連合は無条件に民進党候補を応援してくれると思ひこんでいることがある。もちろん多くのケースは候補者の地道な日常活動を意気に感じて、よっしゃ、この人のためには頑張張つてやろう、ということだが、「選挙」ほど気持ちに伴わないと成り立たない取り組みはない。

若い人の政治意識は、戦後薄まる一方で、投票率も国政選挙でせいぜい三〇%台だ。つまり若い人たちのなかでは投票所に行くほう

が少数派、いってみれば「変わり者」の世の中になってしまっている。そんななかで地道に投票を呼び掛ける職場の役員さんたちは、私からすれば神々しいくらい存在だ。

連合の会長だから言っているのではない。今の日本の抱える病巣をつくりだした最大の原因は、国民の政治離れなのであり、その是正のために、逆風のなか敢然と立ち向かうその姿に、還暦を過ぎたひとりのオジソンとしてこうべを垂れているのである。

### 民進党への国民の目線はまだきつい

国会の本会議を傍聴したとき、あ、この怒号やヤジの姿は子供たちには見せられないなあ、と思つた。別に強行採決云々の場面だったわけではないのに、ちよつとびつくりだ。

子供には見せられないが大人はぜひ傍聴してほしい。今はインターネットTVがあるので録画をしていつでも見ることができ、やはり生で見るのが一番だ。相撲やボクシングなどと同じで臨場感が違う。ヤジの音量も全然違う。

こうづ・りきお 1956年、東京都生まれ。東京大学在学中は野球部マネジャー。卒業後、新日本製鐵株式会社入社。新日鐵労連会長、基幹労連中央執行委員長などを経て、2015年、日本労働組合総連合会会長に就任